

【 6 月の気象 】

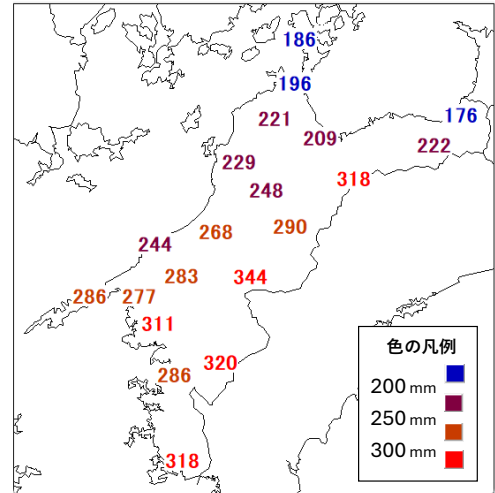
6 月は梅雨の時期となり、松山をはじめ愛媛県内の多くの地点で年間の降水量が最も多くなります。昨年 6 月の降水量は、中予や東予では平年より多く（最も多かったアメダス地点は玉川 458.5mm、松山は 363mm）、南予では概ね平年並み（大洲 333mm、宇和島 251mm）でした。

梅雨前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込むと、前線の活動が活発化し、大雨災害をもたらすおそれがあります。

梅雨前線が長期間停滞すると、大雨だけでなく低温や日照不足により農作物に被害が発生することがあります。

6 月に台風が接近することもあります。6 月に四国地方へ接近する台風の数、平年値で 0.3 個です。これはおおよそ 3 年に 1 回は台風が接近することを意味しています。

また、盛夏期にかけて気温が高くなります。熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される場合には、気象庁と環境省が共同して「熱中症警戒アラート」を発表しています。愛媛県内のどこかの地点で暑さ指数が 33 を超える予想の場合に発表されます。



6 月の平年の月降水量 (mm)

※小数以下は四捨五入、松山南吉田（空港）は松山と重なるため省略、新居浜は平年値なし。

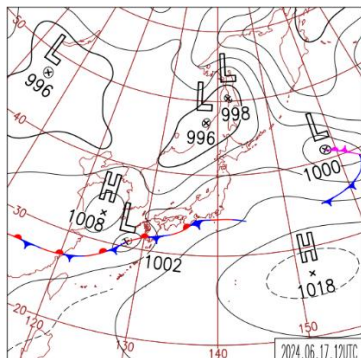
【 気象用語 】「梅雨」とは

梅雨（つゆ）とは、晩春から夏にかけて曇りや雨の日が多く現れる現象、またはその期間のことです。

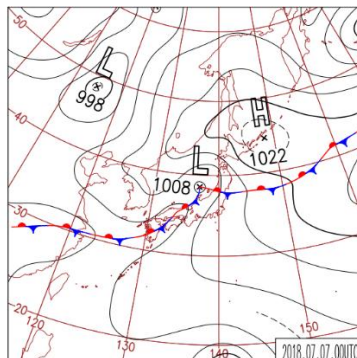
この梅雨をもたらす梅雨前線（ばいうぜんせん）は、太平洋高気圧に伴う湿潤・温暖な気団と、中国大陸の乾燥・温暖な気団あるいはオホーツク海周辺の湿潤・冷涼な気団との間に形成されます。日本では通常は、5 月上旬に沖縄地方から梅雨入りし、梅雨前線の北上に伴って九州や四国、本州も梅雨入りします。なお、今年は 5 月 16 日ごろに九州南部が全国で一番早く梅雨入りしています（速報値）。四国地方の梅雨入りの平年値は、6 月 5 日ごろです。

太平洋高気圧の強まりと共に、梅雨前線は南北動を繰り返しながら日本付近をゆっくり北上し、梅雨の地域が移動していきます。沖縄地方が梅雨明けとなる 6 月下旬頃からは、西日本では梅雨末期の時期となります。梅雨末期は西日本付近に梅雨前線が位置し、そこに太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った空気が流れ込むと梅雨前線の活動が活発化するため、集中豪雨による大雨災害に結びつきやすい時期となります。梅雨前線が停滞し雨が続く場合や、前線上を低気圧が東進する場合には注意が必要です。特に、梅雨前線に台風や熱帯低気圧が接近するような場合は注意が必要となります。

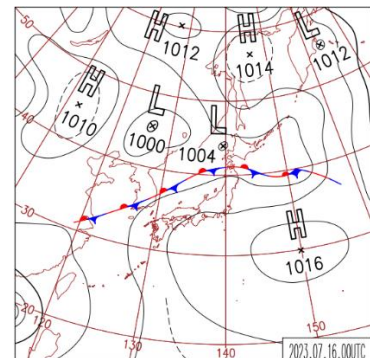
太平洋高気圧の勢力がさらに強まり、梅雨前線が日本海まで北上すると、西日本では梅雨明けの時期となります。四国地方の梅雨明けの平年値は、7 月 17 日ごろです。



四国地方が梅雨入りした頃の
地上天気図(2024 年 6 月 17 日)
梅雨前線は本州の南に位置し、太平洋高気圧の張り出しは弱い。



西日本が梅雨末期となった頃の
地上天気図(2018 年 7 月 7 日)
西日本各地で記録的な大雨となった（平成 30 年 7 月豪雨）。



四国が梅雨明けした頃の
地上天気図(2023 年 7 月 16 日)
太平洋高気圧の勢力が強まり、梅雨前線は日本海へ北上した。

梅雨に関するこちらの記述もご覧ください→ [よくある質問集](#) > [雨・雪について](#)